

資源管理に必要な情報の提供事業

漁海況予報関連調査

久野正博・岡田 誠・程川和宏・藤原正嗣

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 21 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、規模の大きな C 型から平成 21(2009)年 4 月中旬に W 字状を経て、4 月下旬には一時的に B 型となったが、5 月はじめには C 型へ移行し、その後は 6 月末まで C 型で推移した。7 月に C 型の蛇行規模が縮小し、N 型に近い C 型基調 (W 字状や D 型を含む) が 10 月はじめ頃まで続き、10 月中旬以降は N 型基調となった。10 月末以降は小冷水渦の通過に伴って、一時的に小規模 B 型のような流路も出現したが、11 月末まで N 型基調の中での変動であった。12 月上旬には小規模 B 型から C 型流路へ移行した。C 型流路は持続することなく蛇行部は東進し、1 月には房総半島沖で大きく離岸した D 型に移行した。2 月には D 型は解消し、N 型基調となった。2 月中旬～下旬は N 型基調の中で小規模な B 型に近い流路となった。3 月は中旬まで N 型で経過したが、3 月末には小蛇行の東進に伴って W 字状の流路となった。

潮岬沖の黒潮は、4 月上旬～中旬に小蛇行の通過に伴って一時的に 33° N 以南に離岸した。5 月には徐々に接岸傾向となり、6 月以降は接岸基調が 12 月まで続いた。1 月末にやや離岸傾向となり、2 月にかけて短期的な離接岸変動を繰り返した。3 月後半は小蛇行の東進に伴っ

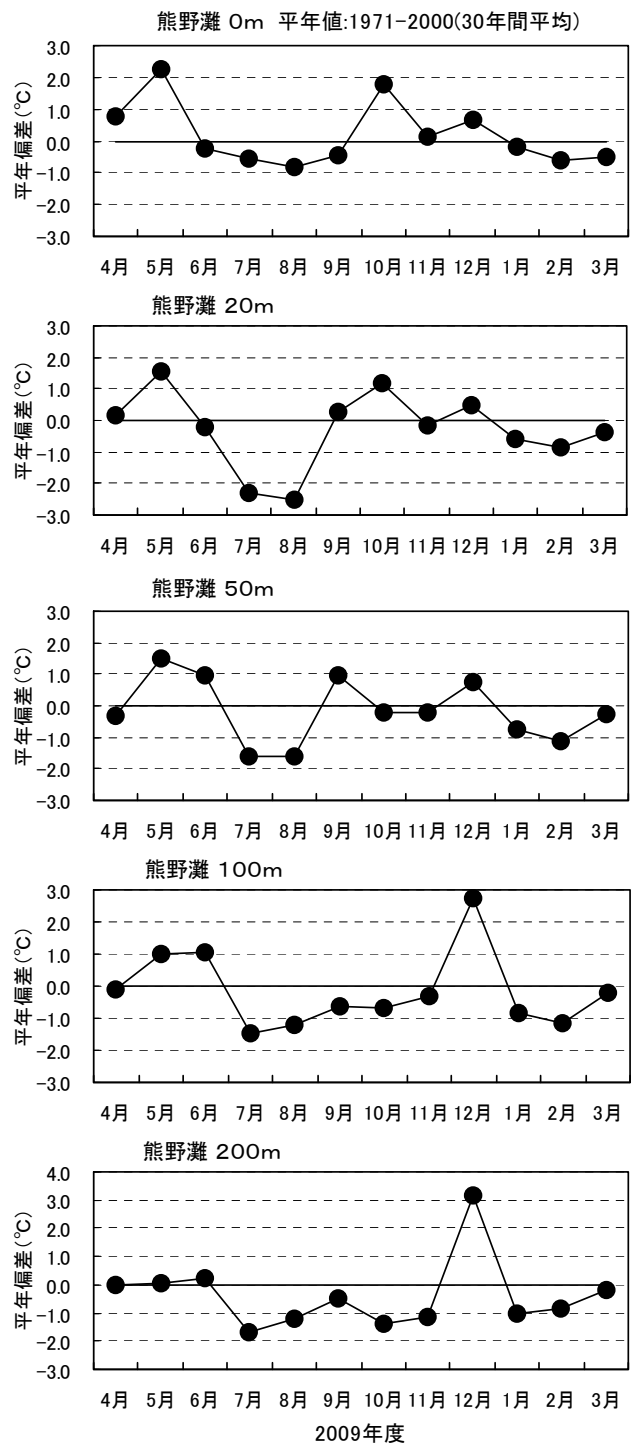


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の年平均偏差

て離岸規模が拡大し、一時的に33°N以南に離岸した。

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、冬季から平年並み～やや高め基調で経過し、4月および5月には一時的に黒潮系暖水の影響で表層を中心に高水温が顕著となった。6月には下層を中心に低水温傾向となり、7月は顕著な沿岸湧昇によって、表面でも低水温が一時的に顕著となった。9月以降も下層の低水温傾向は持続したが、表層では暖水流入時に高めとなった。12月は下層を中心に高水温傾向が顕著となったが、1月には平年並み～やや低め傾向となった。その後も特に顕著な暖水流入は見られず、沿岸では3月中旬まで低水温傾向で経過した。3月末には黒潮小蛇行の東進に伴う暖水流入で昇温した。

浜島の定地水温は、4月上旬はほぼ平年並み、中旬には平年を2℃前後上回り、4月下旬～5月上旬は平年並み～やや高めで経過した。5月中旬は平年より3℃以上も高い日があったが、高水温傾向は徐々に解消し、5月末～6月前半は平年並みで経過した。6月後半は平年より1～2℃高め、7月上旬～中旬はほぼ平年並みで経過した。梅雨明けが遅れ、7月下旬～8月上旬は平年より1℃近く低め、8月中旬は平年並みとなったが、8月下旬～9月中旬は再び平年よりも1℃近く低めとなった。9月下旬以降は11月中旬まではほぼ平年並み、11月下旬は平年よりやや低めとなった。12月は平年よりやや低めで経過し、1月には平年並みとなり、2月中旬まで平年並みで経過した。2月下旬は気温がかなり高めとなった影響で、平年より高めとなり、3月も平年より高め基調で経過した。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、表層では4月は平年よりやや低めであったが、5月以降は7月まで平年並みで推移した。底層では4月・5月は平年より高め、6月は平年並み、7月は平年よりやや低めであった。8月～10月は全層で平年

よりも低め基調で推移し、表面では9月・10月に平年より1℃以上低めの測点が多く、底層では8月・9月に平年より1℃以上低めの測点が多かった。11月・12月は全層で平年より高め、1月以降は平年並み～やや低めで推移した。12月には全層で平年より1.5℃以上高めの測点が多かったが、1月には平年よりやや低めとなった。2月は平年並みで推移し、3月には平年より1℃以上高めで、3℃以上も上回った測点もあった。

塩分は、4月～7月は表層では平年より高め、中・底層では概ね平年並みで経過した。表面では8月に平年より低めであったが、9月にはかなり高めとなり、10月・11月は平年より高め、12月は平年並み、1月は平年よりやや高め、2月には平年並みとなった。

DO(溶存酸素量)は、6月に底層部で2ppm以下の貧酸素水塊が観測され、7月にはさらに規模が大きくなった。7月以降、貧酸素水塊は湾中央部を中心に広範囲に存在していたが、10月にはかなり規模が縮小し、11月の観測では解消していた。

白子の定地水温は、3月以降、平年より高めで経過し、4月中旬は平年より3℃前後も高めとなった。4月下旬～5月上旬は平年並み～やや高め、5月中旬には平年より2～3℃高い日があった。6月上旬は平年並み、その後は7月中旬まで平年より高めで経過したが、7月下旬～9月中旬は平年より低めで、7月30日には1958年の観測開始以来の同日最低水温を更新した。9月下旬～10月下旬はほぼ平年並みで経過し、11月には平年並み～やや高めとなり、12月中旬まで平年よりやや高めで経過したが、12月下旬～1月上旬には平年よりやや低めとなった。1月中旬以降は平年並み～やや高めで経過し、2月中旬以降は平年並みとなり、3月は平年より高めとなった。

関連報文

三重県(2010)：平成21年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)。